

観音寺Ⅱ区発掘調査 現地説明会資料

2008・1・27、奈良県立橿原考古学研究所

A) 調査の概要

- | | |
|--------|---|
| 1、調査地 | 橿原市観音寺 |
| 2、調査原因 | 京奈和自動車道に伴う「橿原南・御所ⅠC（仮称）」建設 |
| 3、調査面積 | 約 12,000 m ² (A地区 2,700 m ² 、B地区 4,500 m ² 、C地区 4,800 m ²) |
| 4、調査期間 | 平成 19 年 11 月 19 日～現在継続中（2 月末日終了予定） |
| 5、調査担当 | 調査第 2 課 主任研究員 本村 充保
同 嘱託 松浦 憲治
同 鈴木 一議
同 長谷川義明 |

B) 成果の概要

- 1、検出遺構
 - ・ 弥生時代の方形周溝墓 17 基
 - ・ 古墳時代の旧河道 1 条
- 2、出土遺物
 - 弥生土器・古式土師器・土師器皿・瓦器など

C) 方形周溝墓

☆方形周溝墓とは・・・

方形周溝墓は、簡単に言えば、「方形」に「溝」を巡らせた「墓」です。弥生時代を中心とする時期に造られた墓で、ほぼ全国的に事例が確認されている、弥生時代の墓制としては最も一般的なものです。畿内の方形周溝墓は、基本的に四辺とも溝が掘られるものが多いですが、四隅など溝の一部を掘り残したものも見られます。また、単独で見つかることはあまりなく、基本的に数基から数十基がまとまって見つかることが多いという傾向が見られます。奈良県内で確認された方形周溝墓は、弥生時代中期(約 2,200 年前～約 2000 年前)に盛んに造られているということがわかっています。また、周溝内から出土する土器は、完形のものが多いという傾向が見られます。

1、数

- ・従来、弥生時代の集落遺跡が知られていなかったこの地域で、弥生時代の方形周溝墓**17基**を確認しました(溝の一部を検出したものを含む)。奈良盆地における方形周溝墓の代表的な調査例としては、大和郡山市八条北遺跡46基、橿原市土橋遺跡24基、同市曲川遺跡30基、奈良市柏木遺跡18基、田原本町阪手東遺跡17基などが知られています。このように、この遺跡は、盆地内でも方形周溝墓が数多く検出された遺跡であるといえます。

2、形

- ・平面形は、**長方形**が主です。
- ・周溝は、**四辺とも掘削されたもの**が多数を占めますが、C地区**22号墓**のように、**四隅の一ヶ所が掘り残されているもの**も見られます。また、A地区1・3号墓、B地区12・13号墓、C地区21・22号墓、24・25号墓、25・26号墓、23・27号墓は、周溝の一部を共有しています。
- ・**墳丘盛土**は残存していませんでした。これは後世に削平されたためで、もともとは墳丘があったと考えられます。

3、大きさ

- ・大きさには差があり、長辺の長さ**10~16m**、短辺の長さ**7~10m**(周溝の内側で計測)を測ります。墳丘部面積で比較すれば、約**224㎡**を測るC地区**21号墓**が最大で、約**76㎡**を測るC地区**22号墓**が最小です。

4、時期

- ・C地区**23・24・26号墓**などの周溝内からは、ほぼ完形の土器が出土しました。これらの土器は、方形周溝墓に対する**供献土器**(墓に供えられた土器)であったものと考えられます。出土土器の時期は、おおむね**弥生時代中期前半頃**(約2200年前)のものと考えられます。

5、墓の埋葬施設

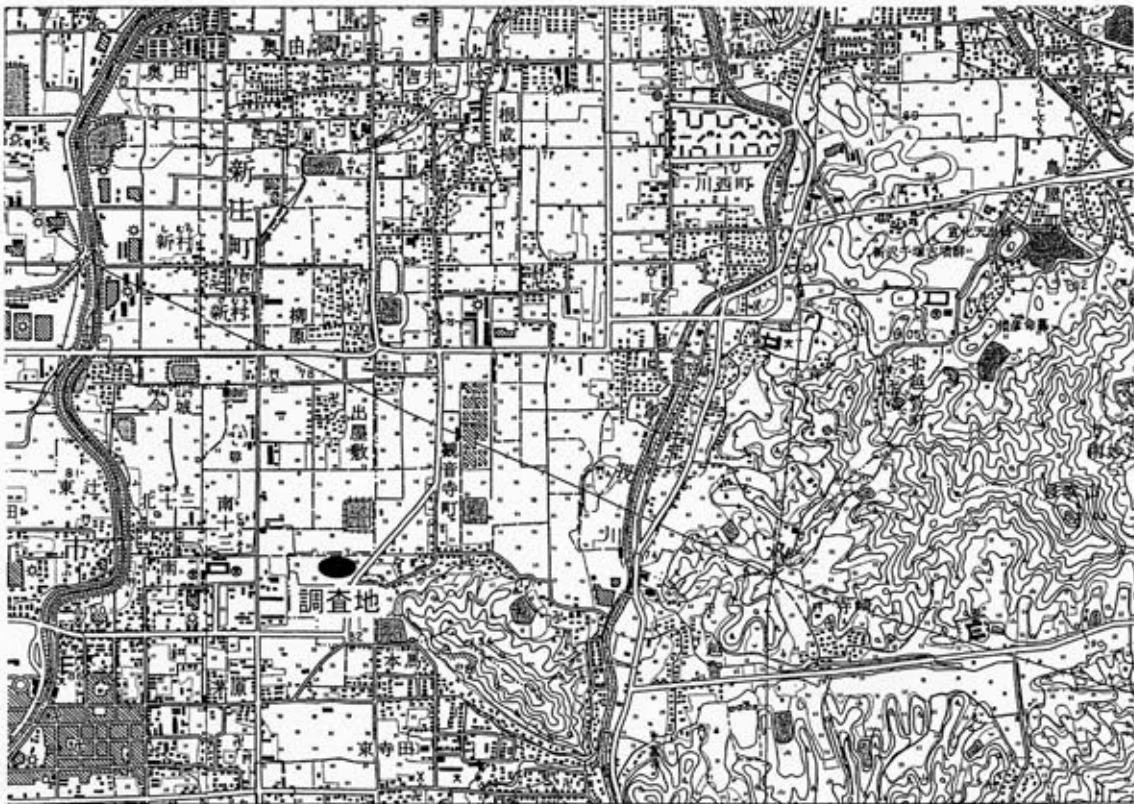
- ・中世の**素掘溝**(耕作に伴う溝状の遺構)が掘削されていることから、墳丘部は、少なくとも中世には完全に削平されていたと考えられます。このために、埋葬施設は全く確認することはできませんでした。また、副葬品と考えられるような遺物も、全く出土しませんでした。

6、分布

- ・古墳時代前期の旧河道を挟んで、**西側の一群**と**東側の一群**に分かれ、**東側の一群**に集中するという傾向が見られます。また東側のグループ内でも、より東側に位置するものは**方位がおおむね北西**を向くという傾向が見られますが、より西側に位置するものは**方位がおおむね北北東**を向くという傾向が見られます。

D) まとめ

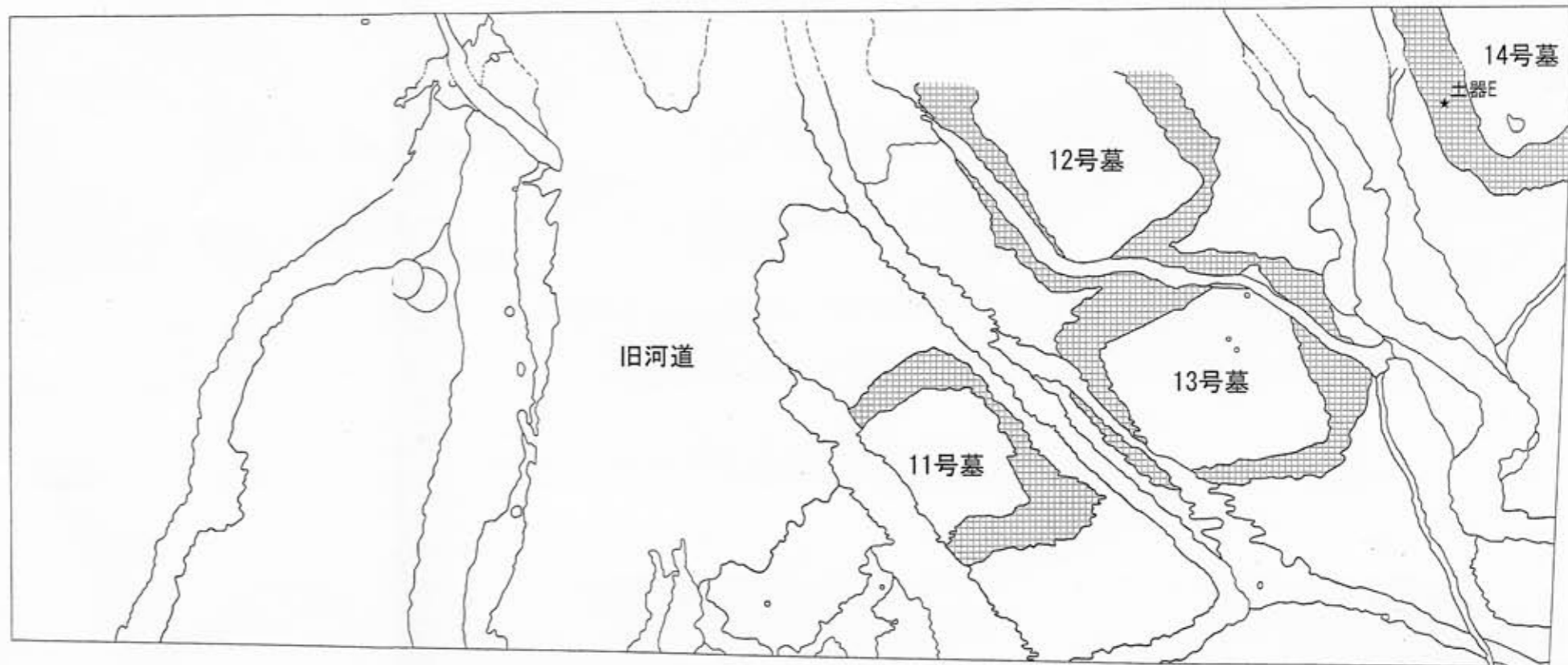
- ・今回の調査の最大の成果は、従来、弥生時代の遺跡が知られていなかった当地域において、大規模な方形周溝墓群を確認したことにあります。今後の出土土器の検討によって、方形周溝墓が造られていった過程が明らかにできれば、奈良盆地における弥生時代の墓制を考える上で、貴重な資料になると思われます。
- ・弥生時代中期頃に墓域が形成されていたことが明らかになりましたが、今のところ周辺では、弥生時代中期頃の集落遺跡が未確認であるため、この墓域を造った人々がどこに住んでいたのかについては、現時点では不明といわざるを得ません。今後の調査の進展が期待されます。



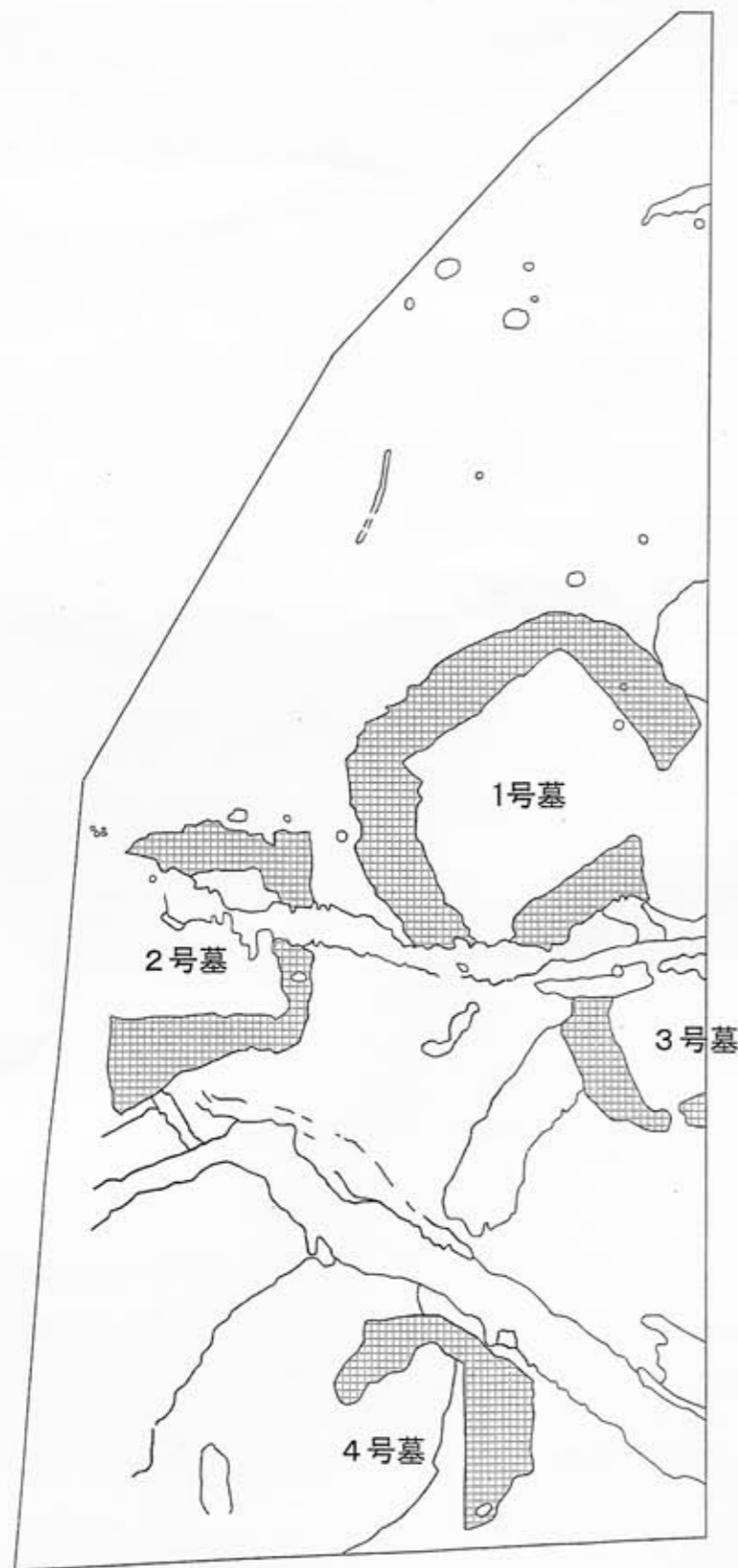
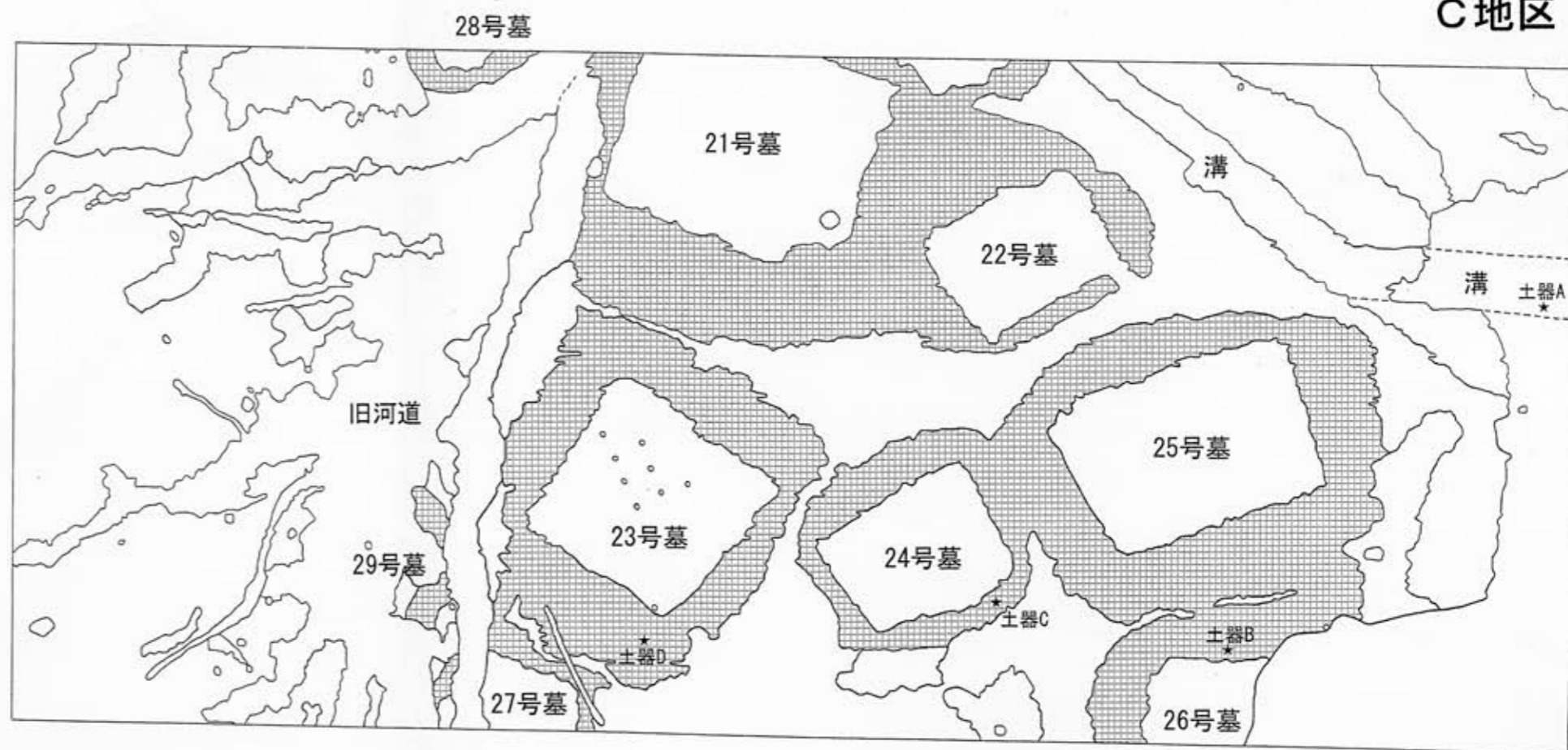
調査地位置図 (S:1/25,000)



B地区



C地区



A地区

観音寺Ⅱ区遺構平面図 (S:1/400)

